ゆたかな心をはぐくむ

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権作文シリーズ【No.36】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

＊作者の学年は作文が綴られた昨年度の在籍学年です。
＊◇印からの文章は先生のコメントです。

お母さんはちょっときゅうけいして

お母さんのしごと

菊陽西小学校2年　まきさか　わたる

お母さんのしごとは、スーパーマーケットです。しごとは夜の十二時から朝の四時までです。おきゃくさまの　しょうひんを　おかいけいしたり、しょうひんをほじゅうしたり、きれいにならべてかいものをしやすいようにします。

お母さんがかえってきた時、ぼくはねています。ぼくがおきた時は、お母さんは　ねています。

ぼくが　学校から　かえってきた時、お母さんはたまにねていることが　あります。六時半になったら、お母さんは　ごはんを作ります。ふつうは、お父さんが　夜ごはんの前にかえってきます。お母さんは、ぼくたちが　ねむったあとに　しごとにいきます。

お母さんの　しごとの　はなしを聞いて、しごとは　むずかしそうだと思いました。つかれてくたくたになると思います。だけど、ぼくたちに　おもちゃやおかしをかうために　しごとをしていると

▲班でお話

わかりました。

ぼくは、こんどから　お母さんに「しごと　がんばって」と言います。ほかにも　おてつだいをして、「お母さんはちょっと　きゅうけいしてて。つかれがなくなったらやって」と言います。

◇渉くんたちが夜寝ている間に、お母さんが一生懸命お仕事をされていることがよくわかります。お父さん・お母さんに「頑張って」と言ったりお手伝いをしたりして、ありがとうの気持ちを伝えてくださいね。

今からでもできることが・・

「平和学習で学んだこと」

菊陽南小学校6年　村並　明日香

私は平和学習で語り部の中村さんのお話を聞きました。中村さんはつらかったことをくわしく話してくださいました。そのお話の中で核兵器を無くしていってほしいとおっしゃっていました。

それを聞いて大人になって核兵器を無くす活動があれば参加したいと思ったし、今からでもできることがあれば積極的に取り組みたいと思うようになりました。何ができるかまだわからないけれど、核兵器で苦しんだ人がいることを忘れないようにしたいです。他にも家族は大切であること、いのちは尊いものであることが身近に感じられました。学校で習ったことや修学旅行での学習では戦争の恐ろしさを知ることができました。そして、私がたまに人にぼう力をしてしまうのは話合いで解決しようとせず、攻げきして済ませる点が戦争と同じだと思いました。

学校では悪口があって、言う人と言われる人、それを見ているだけの人がいると思います。私は見ている立場の時が何度かありました。でも止めたり注意したりすることはありませんでした。とめたら今度は自分がなにかいわれるんじゃないかという恐怖があるからです。言う方だって自分が悪口を言われたらということを考えるとつらくなると思うし、言われる方ももちろんつらいと思います。被爆者や戦争で生き残った人がきずつく言葉を言われたら、もっと辛いし、自信をなくしてしまうと思いました。だから、一人で人をきずつけることをなくすのではなくみんなで協力することが必要だと思います。そうすれば、核兵器も戦争もない本当の平和な世界ができると思いました。

▲旅先で学ぶ

◇国と国との関係も、「あくまで話し合いで解決していく」という姿勢があれば、戦争にはならないのではないでしょうか。人ごとだと思わずに、まずは、私たち一人一人の実際の生き方から考えていくことが大切ですね。

菊陽人りさーち

山本　美空（みく）さん（7歳）
［辛川］

- **趣味**
  絵
- **将来の夢**
  モデル
- **今一番やりたいこと**
  ジェットコースターに乗りたい
- **家族に伝えたいこと**
  旅行に行きたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先（昼間）」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注）掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

上妻　雅斗（まさと）さん（8歳）
［馬場楠］

- **趣味**
  野球
- **将来の夢**
  野球選手
- **自慢**
  足が速い
- **家族に伝えたいこと**
  グリーンランドに連れて行ってもらいたい

きくよう文芸

菊陽句会報

ふてぶてし尻をふりふり寒鴉　坂本百合子
梅一輪挿して匂ひぬ母忌日　田中　郁子
風花や狭き路地入る救急車　井　子文
大好きと片言電話バレンタインデー　財津　早雪
つくばいに踊る雨脚春隣　原野レイ子
薄氷の溶けて命の生れし音　力　幸子
山茶花の紅も寂びたる狭庭かな　寺尾千代子
涅槃像阿蘇の山肌乳白に　髙橋　孝子
先人の巧みの石垣冬ぬくし　堀川　妙子
カラス達枯木に黒い実をつける　佐藤　健
故郷はあの谷あたり冬景色　佐藤　節

逝きし姉偲ぶ窓辺にしぐれくる　吉野　早苗
凍土に野草の健気愛しめり　井上久美子
大寒波又訪れて竹騒ぐ　宮川ユキエ
春立つやエプロンきりりと厨事　日髙　妙子
風花や風にはぐれて落ゆけり　曽我　育代
どんど火の吹き上ぐ炎天焦す　曽我トモ子
階老の更に睦まれ梅開く　紫藤　祥子
短日や齢隠せぬ物忘れ　村上　朋子
どんど焼「火竜」が躍る辰の年　野口　今史
酔ひにきて酔へぬおでんの酒となり　松橋　強
冬うらら学童無邪気な句を並べ　佐藤　澄世

短歌会

窓越しにまだかと待ちし白梅の一輪咲きて宝の如し　今村　貞子
星光る空を見上げて野菜積む今朝の気温はマイナス八度　梅田　國雄
背にぬくむ朝日をあびてわが影の歩む姿のこころもとなし　河北　孝一
弧を描く月の真下に木星と金星連なり輝き合ひて　菊川あさみ
車椅子で朝々窓辺に近寄りて鳩の集える屋根を眺むる　下田　久子
福寿草一月遅れて咲く庭に春の近さを思いて立ちぬ　佐藤せい子
病みつきて雪降る空を眺めつつ弾ける子らの声もおぼろに　中村トシエ
こうまでも自然は人を試すのか豪雪の地に春なお遠く　森　敦子
工房の青き炎の作り出すきらめく彩のトンボ玉それぞれ　山川　カヅ